

令和2年度第1回 瑞浪市中山道保存活用計画策定懇談会 会議要旨

■日 時：令和3年1月6日（水） 10時00分から11時35分まで

■場 所：瑞浪市化石博物館（レクチャールーム）

■出席者：秋山晶則、可知正己、大竹和夫、小栗司、足立亘、正木麻子、棚橋哲夫
和田光浩、砂田普司（事務局）
株式会社イビソク（オブザーバー：2名）

■議事

3. 座長選出

出席者の互選により、秋山晶則氏を座長に選出

4. 説明事項

1) 事業概要

事務局より資料に基づいて説明

- ・住民の意見・要望を交えながら議論を行っていく必要がある。
- ・中山道の保存、活用にあたっての課題を見える化していくべき。ブレインストーミングなど意見を集約するようなプロセスを踏むのもひとつの方法。
- ・高齢化により今までのような住民活動は今後できなくなる可能性が高いので、しっかり現実に即した議論をしていきたい。
- ・保存活用計画の策定後の使用見込みについて教えていただきたい。
- ・史跡指定されたことで良好な環境に整備ができるようになったため、行政が行うべきことと地域でできることとの位置づけを明確にしていきたい。
- ・現実的な課題を抽出し、双方向性のある議論を行って計画に反映していただきたい。

2) 史跡の概要と対象範囲

事務局より資料に基づいて説明

商工課・正木より中山道に関連した取り組みについて説明

都市計画課・棚橋より景観政策について説明

- ・ボランティアガイドの高齢化が激しい現状があり、活用整備された時に見合ったガイドができるのか体制的な面で心配な部分がある。
- ・平日の来訪者が多くボランティアガイドが対応できないことがある。また、多言語化対応など活用方法に見合った案内の仕方を検討する必要がある。
- ・ボランティアガイドについては自主的な組織として活動しているが、高齢化やメンバーの減少が危惧される。今後はある程度、行政からの支援も期待したい。

- ・関連した取り組みは面的なまちづくりの観点で活用が必要である。本年度、大湫町では地域の事業として、まちづくりの基本計画を策定する予定であり、これらの計画とも齟齬の無い計画としてほしい。

3) 今後のスケジュール

事務局より資料に基づいて説明

- ・短い期間ではあるが、しっかりした方針を持って策定してほしい。
- ・見えていない情報を今見えている情報と結び付けて史跡の本質的価値をとらえる必要がある。
- ・計画策定が事業のスタートとなるため、史跡の本質的価値を享受できるような取り組みをしていただきたい。